

(前年度予算額 1,508百万円)  
平成22年度予算額 1,599百万円

多くの人々に支持され親しまれている総合芸術であり、かつ海外への日本文化発信の有効な媒体である日本映画の振興を進める。

## 日本映画の創造・交流・発信

予算額 1,072百万円 (1,073百万円)

- ①芸術創造活動特別推進事業(映画製作への支援)
- ②フィルムコミッションの活動支援
- ③ロケーションに係るデータベースの運営
- ④文化映画賞
- ⑤海外映画祭への出品等支援
- ⑥全国映画祭会議
- ⑦アジアにおける日本映画特集上映事業
- ⑧「日本映画情報システム」の整備

## 自律的な創造サイクルの確立

## 人材の育成と社会的認知の向上

### 若手映画作家等の育成

予算額 180百万円 (182百万円)

- ①短編映画作品支援による若手映画作家の育成
- ②映画関係団体等の人材育成事業の支援

## 映画フィルムの保存・継承

### 我が国の映画フィルムの保存・継承

予算額 347百万円 (253百万円)

フィルムセンター機能充実経費  
(参考)

フィルムセンター相模原分館増築

- ・施設 3,035百万円(平成21年度第一次補正)
- ・設備 996百万円(平成22年予算額)

# 我が国の存在感を高める日本映画の振興と日本文化の理解の促進

# 映画製作支援制度の概要

## 事業の概要

我が国の優れた映画の製作活動を奨励し、映画芸術の振興を図るため、日本映画の製作活動を支援する。

## 対象となる活動

活動区分		上映時間	助成対象経費	助成金の額 (千円)	完成形式等
劇映画	特別	1時間以上	2億円以上	50,000	35mm以上のポジフィルムによるもの
	A		1億円以上	20,000	
	B		5,000万円以上	10,000	
記録映画	特別	1時間以上	5,000万円以上	15,000	16mm以上のポジフィルム又はビデオテープ等によるもの
	A		2,000万円以上	5,000	
	B	20分以上	600万円以上	2,000	
アニメーション映画	長編A	1時間以上	2億円以上	50,000	アニメーション技法によって製作された作品
	長編B		8,000万円以上	20,000	
	短編	1時間未満	1,000万円以上	3,000	

## 募集時期と完成時期

	募集時期	完成時期
第1回	* 平成22年度:平成21年12月14日～12月18日	当該年度 4月1日～3月31日
第2回	* 平成22年度:平成22年 6月28日～7月 2日	当該年度10月1日～3月31日

## 助成の対象となる者

映画の製作活動を行うことを主たる目的とする我が国の団体で、過去に一般に広く公開された映画を製作した実績を有する者

## 映画製作支援への申請・採択作品

平成19年度～平成21年度 文化芸術振興費補助金(文化庁事業) 応募・採択状況

区分	平成19年度						平成20年度						平成21年度						計		
	第1回			第2回			第1回			第2回			第1回			第2回					
	応募	採択	採択率	応募	採択	採択率	応募	採択	採択率	応募	採択	採択率	応募	採択	採択率	応募	採択	採択率	応募	採択	採択率
劇映画	35	10	28.6%	42	7	16.7%	44	15	34.1%	35	10	28.6%	62	21	33.9%	58	12	20.7%	276	75	27.2%
記録映画	8	3	37.5%	9	2	22.2%	16	3	18.8%	14	4	28.6%	18	5	27.8%	26	5	19.2%	91	22	24.2%
アニメーション映画	0	0	-	1	0	0%	3	2	66.7%	4	1	25%	6	2	33.3%	8	3	38%	22	8	36.4%
合計	43	13	30.2%	52	9	17.3%	63	20	31.7%	53	15	28.3%	86	28	32.6%	92	20	21.7%	389	105	27.0%

\* 上記表にも示されるように、劇映画や記録映画と比較するとアニメーション映画の応募が少ない。

3年間で応募22件中8件の採択があったが、その内訳は、以下の通りである。

助成対象経費2億円以上(助成金額5,000万円)の長編アニメーション映画:

応募 8件中3件採択

助成対象経費8,000万円以上(助成金額2,000万円)の長編アニメーション映画:

応募10件中3件採択

短編アニメーション映画の応募:

応募 4件中2件採択

# アニメーション映画の申請・採択状況

## 平成19年度～平成21年度の応募・採択状況

### 【平成19年度】

区 分	第1回			第2回			計		
	応 募	採 択	採択率	応 募	採 択	採択率	応 募	採 択	採択率
意欲的な企画製作(オリジナル脚本による映画製作活動)	0	0	—	0	0	—	0	0	—
意欲的な企画製作(国際共同製作による映画製作活動)	0	0	—	0	0	—	0	0	—
新人監督やシナリオ作家を起用した映画の製作	0	0	—	1	0	0%	1	0	0%
地域において企画・制作された映画の製作	0	0	—	0	0	—	0	0	—
合 計	0	0	—	1	0	0%	1	0	0%

### 【平成20年度】

区 分	第1回			第2回			計		
	応 募	採 択	採択率	応 募	採 択	採択率	応 募	採 択	採択率
意欲的な企画製作(オリジナル脚本による映画製作活動)	2	1	50.0%	2	0	0%	4	1	25.0%
意欲的な企画製作(国際共同製作による映画製作活動)	0	0	—	0	0	—	0	0	—
新人監督やシナリオ作家を起用した映画の製作	1	1	100%	1	1	100%	2	2	100%
地域において企画・制作された映画の製作	0	0	—	1	0	0%	1	0	0%
合 計	3	2	66.7%	4	1	25.0%	7	3	42.9%

### 【平成21年度】 ※芸術文化振興基金による実施の一元化に伴い区分を変更

区 分	第1回			第2回			計		
	応 募	採 択	採択率	応 募	採 択	採択率	応 募	採 択	採択率
長編A	4	1	25.0%	4	2	50.0%	8	3	37.5%
長編B	1	0	0%	1	0	0%	2	0	0%
短編	1	1	100%	3	1	33.3%	4	2	50.0%
合 計	6	2	33.3%	8	3	37.5%	14	5	35.7%

# 若手映画作家等の育成事業の概要

## 1. 短編映画作品支援による若手映画作家の育成事業(平成18年度～)

### 事業の概要

若手映画作家等に本格的な映画製作に必要な技術・知識の習得の機会を設けるとともに、実際の短編映画作品の製作を通して実践する場を与える。

#### (1) 映画作家の公募

芸術家・芸術団体及び各種映画祭等に事業に関する告知を行い、優れた若手映画作家を公募する。

#### (2) 製作ワークショップセミナー

本格的な映像製作技術と作家性を磨くために必要な知識や技術を習得するためのワークショップを実施する。

#### (3) 映画製作活動の現地研修

映画製作に関する指導助言が適切に行うことができる体制をつくり、若手映画作家に映画製作の現地研修を行う。製作現地研修には35ミリフィルムを使用し、作品はストーリーのあるものに限定し、上映時間はクレジット等すべて含めて25分以上30分以内とする。

#### (4) 上映会の開催

完成した映像作品に関する理解を深めるため映画製作関係者などに対する上映会を開催し、直接的な情報・意見交換を行う場を設ける。

### 事業の実績(過去3年間)

#### 平成19年度

○ワークショップ 参加18名(応募40件)

○製作実習 5名

- ・郡司掛雅之監督「天国のバス」
- ・児玉和土監督「さよなら、ジョージ・アダムスキー」
- ・タテナイケンタ監督「直下型の女」
- ・平林勇監督「BABIN」
- ・山口智監督「UFO食堂」

#### 平成20年度

○ワークショップ 参加17名(応募57件)

○製作実習 5名

- ・熊谷まどか監督「嘘つき女の明けない夜明け」
- ・田中智章監督「花になる」
- ・中野量太監督「琥珀色のキラキラ」
- ・吉井和之監督「くだん」
- ・和島香太郎監督「第三の肌」

#### 平成21年度

○ワークショップ 参加15名(応募65件)

○製作実習 5名

- ・浅野晋康監督「きみは僕の未来」
- ・金井純一監督「ペダルの行方」
- ・清水艶監督「ホールイン・ワンダーランド」
- ・岨手由貴子監督「アンダーウェア・アフエア」
- ・遠山浩司監督「そぼろごはん」

#### ※現地製作研修参加監督の受賞歴等

平林勇監督「BABIN」ロカルノ国際映画祭 “Leopards of Tomorrow Competition”にて“Film and Video Subtitling Prize”及び“Prize 《Cinema e Gioventu`》”を受賞

平林勇監督「aramaki」ベルリン国際映画祭 短編オフィシャルコンペ部門ノミネート

# 若手映画作家等の育成事業の概要

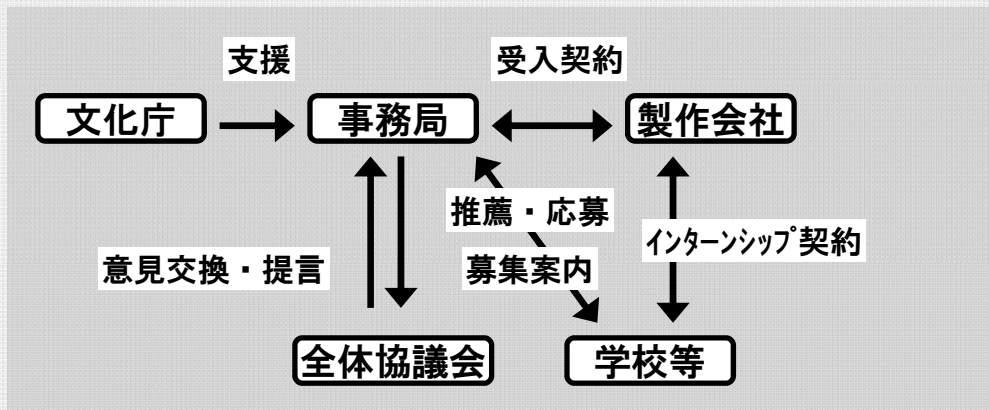
## 2. 映画関係団体等の人材育成事業の支援(平成16年度～)

### 事業の概要

実践的な人材育成のため、学生に実際の製作現場で可能な限り各職種の製作に関する全過程を経験し、プロフェッショナルな作品製作を自ら体感することにより、将来必要となる知識・技術等を学び考えてもらうことを目指す。

<職種:製作、演出、シナリオ、撮影、証明、録音、美術、スクリプター、編集、ポストプロダクション>

### 【事業の実施図】



参加者の卒業後の進路(234人:平成16～18年度)

・就職先	映像会社	28人(12%)
	映像関連フリーランス	96人(41%)
	計	124人(53%)

### 事業の実施状況(過去3年間の推移)

年度		平成19年度	平成20年度	平成21年度
学生数	応募	173人	179人	201人
	参加	112人	137人	138人
推薦学校数		31校	27校	34校
受入社数		39社	57社	55社